

**製品名: ERK 1/2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10594**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	42,44kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAPK1/MAPK3
別名	MAPK1; ERK2; PRKM1; PRKM2; Mitogen-activated protein kinase 1; MAP kinase 1; MAPK 1; ERT1; Extracellular signal-regulated kinase 2; ERK-2; MAP kinase isoform p42; p42-MAPK; Mitogen-activated protein kinase 2; MAP kinase 2; MAPK 2; MAPK3; MAPK3; ERK1; PRKM3; Mitogen-activated protein kinase 3; MAP kinase 3; MAPK 3; ERT2; Extracellular signal-regulated kinase 1; ERK-1; Insulin-stimulated MAP2 kinase; MAP kinase isoform p44; p44-MAPK; Microtubule-associated protein 2 kinase; p
遺伝子 ID	5595.0
SwissProt ID	P27361/P28482

## 免疫原

抗血清はヒト p44/42 MAPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 330-379

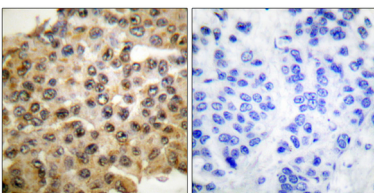
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAP キナーゼファミリーのメンバーです。MAP キナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、様々な細胞外シグナルにตอบสนองして、増殖、分化、細胞周期の進行といった様々な細胞プロセスを制御するシグナル伝達カスケードにおいて機能します。このキナーゼは上流のキナーゼによって活性化され、核に移行して核内の標的タンパク質をリン酸化します。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。ドメイン: TXY モチーフには、リン酸化によって MAP キナーゼが活性化されるスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。酵素調節: インスリンおよび NGF に反応してチロシンリン酸化によって活性化されます。機能: ELK-1 などの多数の転写因子をリン酸化することにより、分化細胞における減数分裂、有糸分裂、および有糸分裂後機能の開始と調節に関与します。EIF4EBP1 をリン酸化します。翻訳の開始に必要です。微小管関連タンパク質 2 (MAP2) をリン酸化します。SPZ1 をリン酸化します (類似性による)。熱ショック因子タンパク質 4 (HSF4) をリン酸化します。PTM: Thr-202 と Tyr-204 が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: MORG1 と相互作用します (類似性による)。HIV-1 Nef に結合します。この相互作用により、そのキナーゼ活性が阻害されます。HSF4 および NISCH と相互作用します。、

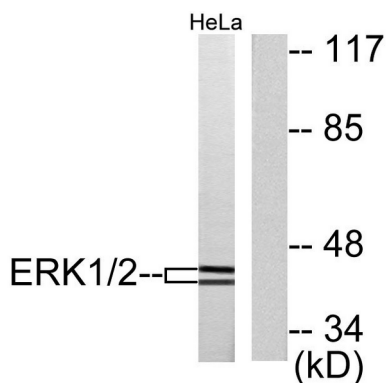
## 研究分野

血管新生の制御、微小管の制御、アクチンダイナミクスの制御、幹細胞経路、T 細胞受容体、インスリン受容体、細胞増殖、Toll 様タンパク質、MAPK、ERK 増殖、MAPK、G タンパク質、B 細胞抗原、PI3K/Akt、mTOR

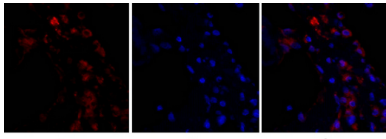
## 画像データ



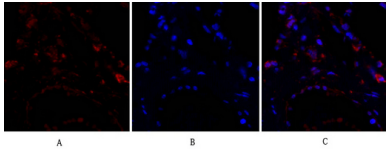
p44/42 MAPK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



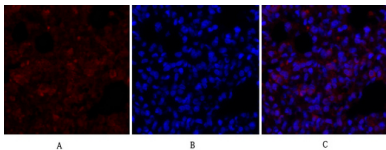
p44/42 MAPK 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



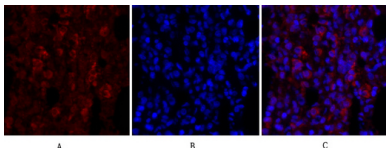
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



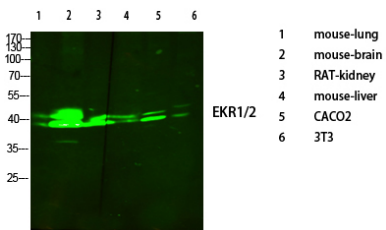
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



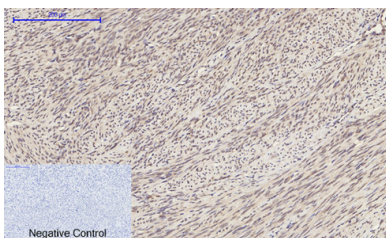
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



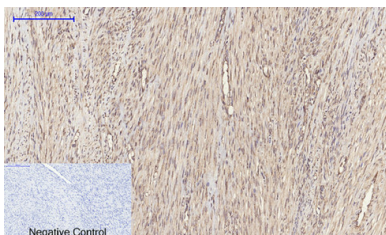
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, ERK 1/2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ERK 1/2 ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晩) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. ERK 1/2 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. ERK 1/2 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。